

# JPRS Update

民田 雅人

株式会社 日本レジストリサービス

2004年7月22日

JANOG14@宮崎市民プラザ

## JPRS Update@JANOG14

1. IDNのJapanese Language TableをIANAへ登録
2. ROOTゾーンへのIPv6アドレス登録
3. JPゾーンでのホスト情報の扱いの変更
4. その後の「日本語JPナビ」

## JPRSオフィス移転しました

7/20(火)より新オフィスにて業務開始

- ネットワーク、ビル設備ともに信頼性とセキュリティが向上しました。今後、より安定したレジストリサービスを提供していきます。

〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-8-1  
千代田ファーストビル東館13階

TEL: 03-5215-8451 (代表)

FAX: 03-5215-8452

<http://jprs.co.jp/map.html>

# IDNのJapanese Language Tableを IANAへ登録

## IDN Language Table

- ・ 2004年4月13日  
 IANAのIDN Language Tablesに.JPのJapanese Language Tableを登録
  - IANAの登録受付は2004年2月末に開始
  - テーブルフォーマットはJET Guidelines for IDN (RFC3743、2004年4月発行) に準拠  
<http://www.iana.org/assignments/idn/jp-japanese.html>
- ・ 「汎用JPドメイン名登録等に関する技術細則」の日本語ラベルに関する部分を、世界標準様式に則って再定義したもの
  - <http://jprs.jp/doc/rule/saisoku-1-wideusejp.html>

# rootゾーンへのIPv6アドレス登録

## JP DNSのIPv6対応の歩み

- ・ 2000年3月
  - JPゾーンへの、NSのグループとしてのAAAA登録受付を開始
- ・ 2001年8月
  - JP DNSがIPv6トランスポートに対応
- ・ 2002年2月
  - ICANNに対してrootゾーンにIPv6が必要と訴える
- ・ 2002年11月
  - JP DNSのIPv6アドレスの申請を試みる
  - TLDとして世界初の要求だったが、技術的課題もあり、時期尚早で実現せず

# JP DNSのIPv6アドレスを rootゾーンへ登録

- 2004年7月12日
  - IANAでの技術検証が終了。  
rootゾーンに、NSと共に登録できるグループとして、AAAAの受付が開始された。
  - <http://www.iana.org/procedures/delegation-data.html>
- 2004年7月13日
  - JP DNSのIPv6アドレスを追加する申請



2004年7月21日(日本時間)  
JPが  
TLDとして世界で初めて  
IPv6に完全対応！

KRも同時対応

2004年7月22日 FRが対応

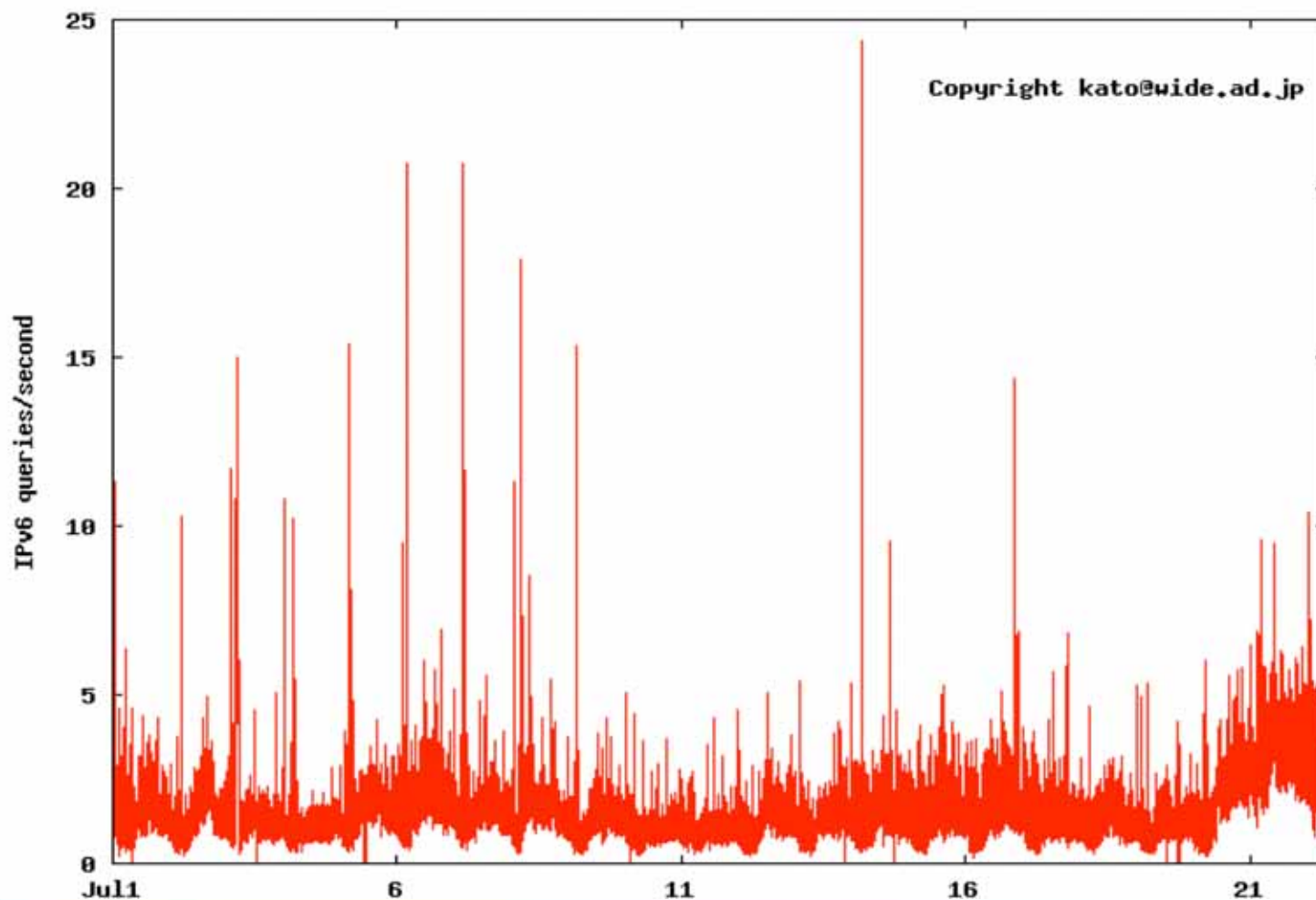
## JP DNSのIPアドレス

a. dns. jp.	IN	A	203. 119. 1. 1
a. dns. jp.		AAAA	2001:dc4::1
b. dns. jp.		A	202. 12. 30. 131
c. dns. jp.		A	165. 76. 0. 98
d. dns. jp.		A	210. 138. 175. 244
d. dns. jp.		AAAA	2001:240::53
e. dns. jp.		A	192. 50. 43. 53
e. dns. jp.		AAAA	2001:200:0:1::4
f. dns. jp.		A	150. 100. 2. 3
f. dns. jp.		AAAA	2001:2f8:0:100::153

## 何が変わるのか

- IPv4、IPv6デュアルスタック環境からの  
http://www.example.jp/ (IPv6対応サイト)
  - DNSでのアドレスの検索
    1. rootネームサーバへIPv4でアクセス
    2. JP DNSへIPv6でアクセス
      - 従来は1回目のみIPv4でアクセス
    3. example.jpのネームサーバへIPv6でアクセス
  - http://www.example.jp/ へIPv6でアクセス
- IPv6のみの世界への大きな前進
  - 残るはrootネームサーバのIPv6化

# e.dns.jpでのIPv6トラフィックの変化



# JPゾーンでのホスト情報の扱いの変更

# JPゾーンでのホスト情報の扱いの変更

- ・ 2004年1月～6月にかけて  
ゾーン外グループの削除
- ・ 2004年6月  
親ドメインの無いホストの削除
  - いずれもDNS用語として一般的なものではない。  
便宜上の呼び方。

## ゾーン外グループとは

- 例えば“co.jp”ゾーンのドメインのネームサーバに、“co.jp”以外のホストが設定してある場合、それらのネームサーバのIPアドレス(グループ)

example.co.jp.	IN	NS	ns1.example.ne.jp.
		NS	ns2.example.ne.jp.
ns1.example.ne.jp.		A	192.168.123.234
ns2.example.ne.jp.		A	10.12.34.56

- 赤字の部分がゾーン外グループ

- ゾーン外グループは不要(RFC 1034, 1912)
  - 上記例では“ns1.○×△.co.jp”であればゾーン内グループ(必要RR)

## ゾーン外グループの取扱変更

- ・ 以前の仕様
  - ゾーン外グループもJP DNSで保持する
  - ドメイン名の問い合わせにおいて、ネームサーバの名前と共にグループを返した
- ・ 現在の仕様
  - ゾーン外グループはJP DNSで保持しない
  - ドメイン名の問い合わせにおいて、ネームサーバの名前のみを返し、不要なグループは返さない



## 親ドメインの無いホストとは

- ・ ネームサーバに設定してあったホストが、ドメイン名の廃止またはNS設定の解除によって、ホスト名のみ上位ドメインに残ってしまうもの

example.co.jp.	IN	NS	ns.example.co.jp.
		NS	ns.example2.co.jp.
ns.example.co.jp.		A	10.79.123.4
ns.example2.co.jp.		A	192.168.1.1

- example2.co.jpドメインを廃止すると、ns.example2.co.jpはグループではなく、“co.jp”ゾーンのホストとなる

## 親ドメインの無いホストの削除

- ・ 親ドメインの無いホストは削除するよう変更。
  - JP DNSに、過去の不要な情報を抱え続けることになり、ネームサーバ中に占める量が無視できなくなる。

# その後の「日本語JPナビ」

## 日本語JPナビのおさらい

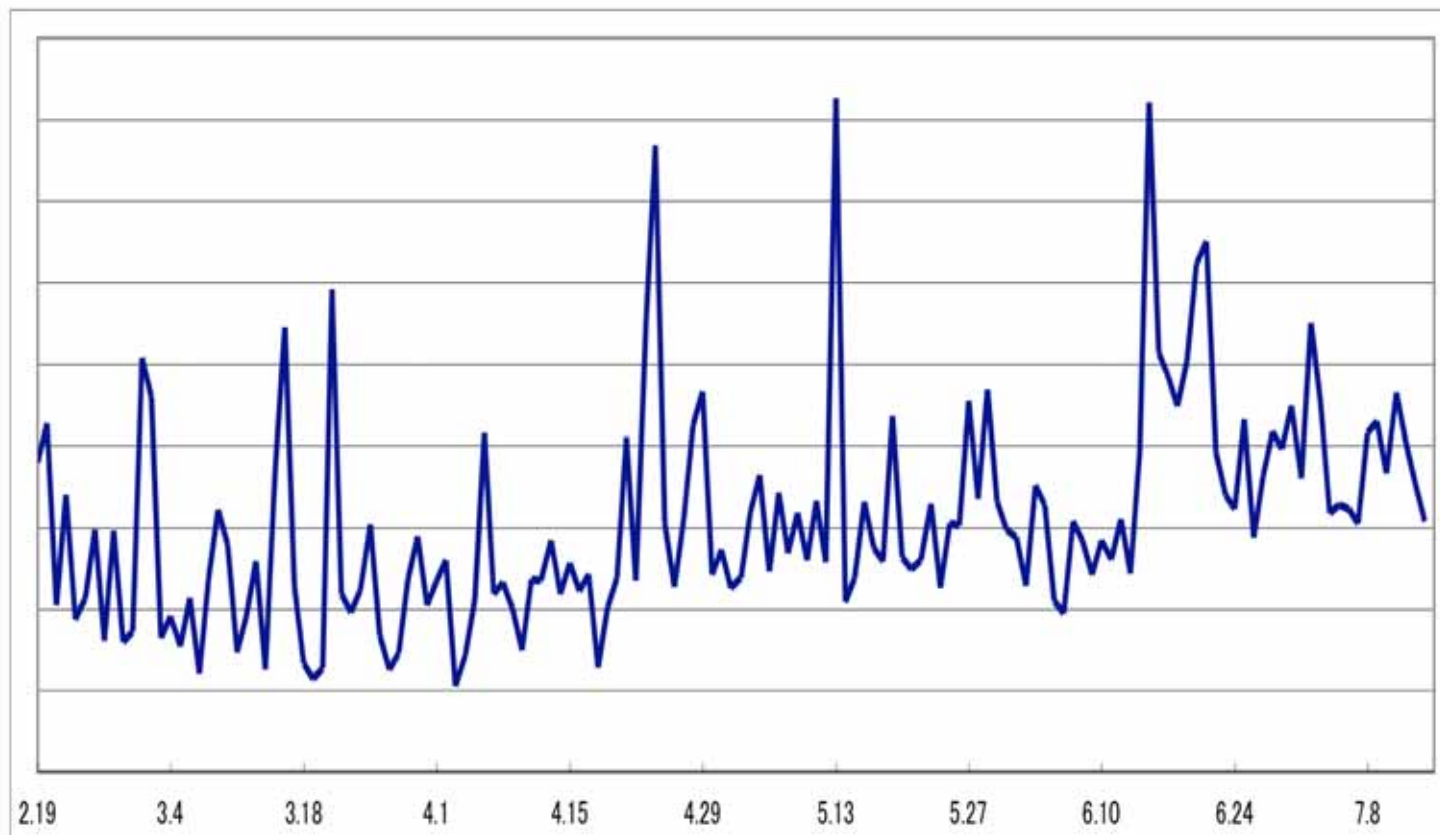
IDN非対応のブラウザで、「http://日本語JPナビ.jp/」といった日本語文字列を含んだURIを入力した場合に、IDN対応のブラウザの利用を促すもの

- Windows 2000 または Windows XPの Internet Explorer 6.0以降がターゲットブラウザ
- 詳しくは JANOG13の「JPRS Update」参照

## 麒麟ビバレッジさんのキャンペーン

- ・ 著名企業が日本語ドメイン名を活用したキャンペーンを行った初めての事例
  - 「<http://生茶.jp/>」
- ・ キャンペーン期間
  - 6月15日から7月31日まで
- ・ 日本語ドメイン名の告知媒体
  - 店頭での告知
  - 自動販売機のポスター
  - 雑誌の広告等

# 日本語JPナビアクセス数の変化



# http://jajp.jp/のアクセス数

- 日本語JPドメイン名アクセスの補助サイト
  - JPRSのサービス

